

志摩の磯笛 松下幹生

真珠のいかだ 浮かぶ海
内海の 風ぎの水面に 舟が行く
磯に育った 母ちゃんが
幼い頃に 教えられ
女の子 これが天職 海女となり
母は 磯笛の
吹き方知らず おばあに習い 一人前に

夕陽傾く 英虞湾の
海女小屋で 女同士の おしゃべりが
何より楽し 盛り上がり
採ったばかりの 海の幸
しゃがれ声 手拍子に乗せ 海女の唄
志摩の 女らは
明日の糧を 気力を上げる 家族の為に

磯笛響く 志摩の海
母ちゃんが 海に潜って 子を育て
ずっと磯場で 暮らし来た
旅行も行かず 街も出ず
潮風に さらされ続け 荒れた肌
いつか いつの日か
僕が働き 口紅1つ 母の日贈る